

科目名	研究ゼミナール1	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	佐々木 宏之		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410038	経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること			
授業の目的・テーマ	心理学の調査・実験における一連の活動（研究計画、準備と実施、データ分析、結果発表）の実践的理解				
内容	<p>卒業研究の遂行のための基礎能力を養うため、3、4名のグループに分かれてテーマを設定し、以下の手順で調査、グループ発表を行う。</p> <p>①文献収集 各種データベースや書店HPから、テーマに関連する書籍・論文を収集する。</p> <p>②調査・実験計画 研究仮説をたて、その仮説の検証に必要な要因計画を行う。</p> <p>③実験・調査方法の習得と実施 質問紙の作成方法について学ぶ。 Power Pointなどを用いて必要な実験材料を作成する。 プログラミング言語を用いて実験遂行用のプログラムを作成する。</p> <p>④データ分析 Excelを用いたデータ処理方法について学ぶ。 t検定、カイニ乗検定、分散分析、因子分析の方法を身につける。</p> <p>⑤研究発表 文献調査・実験で得られた結果をまとめて、Power Pointによるプレゼンをおこなう。 発表スライドは、タイトル・目的・仮説・方法・結果・考察から構成され、グループのメンバーで分担して発表をおこなう。 発表や発表資料に対して、研究室のメンバー全員で議論する。 【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】 【新型コロナウイルス対策の授業1回分短縮に応じて、レポートを提出します】</p> <p>①調査テーマ「SD法によるイメージ測定」、②実験テーマ「ストループ効果」について、計画、実施、分析、考察、発表のグループワークを行う。</p>				

学修到達目標	グループに分かれてテーマを設定し、実験・調査を企画し、結果を分析し、グループ発表を行うことができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	1時間（実験・調査に関するテーマの先行研究調査、卒業研究のテーマ探し）
【復習】時間・内容	1時間（グループ活動の振り返りと関連研究の調査）

成績評価	
評価基準・方法	【成績評価】実験・調査に対する取り組み（80%）、発表内容（10%）、卒論テーマの宿題（10%）
フィードバック方法	個別に相談をする。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	特に教科書は指定せず、必要な資料は授業中に配布する。
---------	----------------------------

受講上の留意点等	<p>次のような学生を求めます。 心理学の授業に興味をもてた学生。 心理学のレポートを楽しめた学生。 英語論文読解、統計学を忌避しない学生。</p> <p>ゼミ活動と並行して、卒業研究へ向けたテーマ選びを行います。 毎週の宿題として、報告してもらいます。</p>
JABEE	

科目名	研究ゼミナール1	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	今井 裕紀		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410038	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	経営における人と組織				
内容	<p>本ゼミナールでは、人と組織に関する経営課題、社会課題に関連したテーマを各自が設定し、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになることを目指します。</p> <p>研究対象分野は経営学における、人間の行動や、経営組織のマネジメントについての研究です。この分野における研究の例としては、ワークライフバランスの実現や、多様な人材の活躍推進およびキャリア形成支援、職場定着支援、ストレス、動機づけなどが挙げられます。また、企業の経営行動、経営に関連した社会課題などを研究の対象に含めることも可能です。</p> <p>指導可能な研究の方法は主に次の2つです。 1) 公開資料にもとづく調査、分析（白書、有価証券報告書、政府統計や各種報告書などを用いた分析） 2) アンケート調査（心理、社会心理、組織心理などに関連する内容を調査し、統計解析する）</p> <p>進め方は以下ようになります。 ①社会科学における基本的な研究の方法論について学ぶ。特に統計の基本的な使い方を実習形式で学ぶ。 ②研究テーマを設定する。 ③研究テーマに関連する社会、産業、労働市場等の動向について幅広く整理する。 ④研究テーマに適した調査を行い、分析する。 ⑤分析結果について考察する。</p> <p>統計については、別途テキストを指定します。 レポート、発表、面談を適宜実施します。</p>				

学修到達目標	テーマ設定、調査・分析の実施、結果の考察などの一連の研究プロジェクトを遂行できるようになる
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究に必要な調査、分析、考察等を行う。 必要時間数：2時間
【復習】時間・内容	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の研究に必要な調査、分析、考察等を行う。 ・授業での意見交換の結果を踏まえて考察する。 必要時間数：2時間

成績評価	
評価基準・方法	クラス参加度・ディスカッション貢献度（30%）、発表・レポート（70%）
フィードバック方法	授業中に講評を行う。あるいはポータルサイトで講評を掲示する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート／プレゼンテーション

教科書/参考書	別途指定します
---------	---------

<p>受講上の留意点等</p>	<p>組織行動論を履修していることが望ましい</p>
<p>JABEE</p>	

科目名	研究ゼミナール1	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	小宮山 智志		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-32-B-3-410038		経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること		
授業の目的・テーマ	多様な価値観に触れることで、新しいアイデアを創出し、集団で問題解決することを、学びます。				
内容	<p>人々の行動や考え方を“人と人との関係（社会）”に着目して“研究”することを目的とします。また社会でもっとも求められている「集団で目標を達成する能力」をお互いに協力して高めます。</p> <p>「学校」が既存の情報・知識を覚えるところであるのに対し、「大学」とは、新しい情報・知識を創造する（＝研究する）能力を身につけるところです。人々について新しい情報を創り出すには、他者の視点を取り入れる必要があります。社会で役立つ卒業研究を行うために、そして卒業後、活躍するためにゼミの仲間や、さまざまな人々と協力することを学びます。研究例を一つ紹介します。</p> <p>研究例：ある食品メーカーの製品では、アレルギー表示がパッケージの前面に「アイコン」で表示されています。このアイコンは、単にアレルギーを持っている方だけでなく、消費者一般に製品の安全・安心感を伝えることができ、購買を促進していることを明らかにしてくれました。紅翔祭で一般の方に2種類のパッケージを実際に見てもらい調査しました（彼はこのメーカーに就職しました）。</p> <p>*他にも小宮山のホームページ（http://www.nuis.ac.jp/~komiyama/）に研究例が紹介されています。</p> <p>研究内容</p> <p>グループ活動を通して、調査・実験を行います。また研究室のメンバーで協力して実際に地域に役立つ活動を行なうこともあります。集まったメンバーで相談し、いままでは以下のような活動を行いました（複数年実施したものもあります）。卒業研究1～4いずれにおいても、グループワークを行い、お互いの意見を参考にしながら進めます。また文章執筆になれるために簡単なゲームをします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポストコロナ社会で私たちができること ・先進的な地域をSNSで発信：全国に先駆け、地域で農業法人化、農家民泊、6次化、農産物のブランド化などを始めていた地域を調査し、活動の発信・販売促進のお手伝いをしました。また地域の小学生とも協力して、継続して発信していく仕組みも考えました。 ・内野町おこしのための「1日限定の喫茶店」を開店：地域の食材を使い内野町をアピールすること、そして内野町に若者を呼び込むことを目指しました。 ・地酒試飲会：地域の地酒を試飲してもらい、評価をもらい、そのような人びとが、どの種類のお酒を好むか調査しました。 ・地域の食材を使った新商品の開発：地域の祭りで、自分たちがアレンジした、地域の伝統食を販売しました。 ・パブリックビューイングの開催：2014年ワールドカップのパブリックビューイングを新潟国際情報大学で開催しました。地域の方にも大勢ご参加いただきました。 ・みずき野飲食店マップ作成：みずき野の飲食店にご協力頂き、飲食店マップを作成しました。 ・ペーパークラフト作成：オリジナルなペーパークラフトを作成し、地域の祭りで販売しました。どのようなデザインのもの好まれるか、調査しました。 <p>*活動内容はグループワークで相談しながら決定します。</p> <p>*活動内容を口頭発表する準備をします。発表練習をとおして、プレゼンテーションを学びます。発表内容をレポートにまとめることで、レポートの書き方を学びます。また全体をとおして、研究するとは何かを学びます。</p>				

学修到達目標	1. 自分の研究が社会にどのような貢献・影響を及ぼすか考察してください。 2. 新しく、社会に役立ち、根拠のある情報を創りだしてください。 3. 情報システムを利用して研究する能力を身につけてください。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	約2時間：調査・実験などの課題を行なってもらいます。
【復習】時間・内容	約2時間：調査・実験などの課題をまとめます。

成績評価	
評価基準・方法	各回のグループワークでの活躍（50%）と、レポートで評価します（50%）。グループワークでアイデアを出すことはとても重要です。それと同時に、各自でアイデアを文章にまとめる力も養います。どちらもイーブン（50%ずつ）で評価します。グループワークを通して、フィードバックします。
フィードバック方法	共有フォルダで各自のレポートへのコメントを共有し、さらにグループワークを通して、フィードバックします。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	グループワーク

教科書/参考書	チャールズ・A・レイブ, ジェームズ・G・マーチ (佐藤嘉倫[ほか]訳) 『社会科学のためのモデル入門』 (ハーベスト社 1991年) の第1~3章 世界思想社編集部 『大学生 学びのハンドブック [4訂版]』 (社会思想社 2018年)
---------	--

受講上の留意点等	<p>*詳細は小宮山のホームページ (http://www.nuis.ac.jp/~komiya/) で公開します。志望理由の書き方が記してありますので、小宮山研究室を希望する方は、必ず参照してください。</p> <p>*2年生の春休みにサブゼミ (1日程度) を開きます。日程等は参加者の皆さんの都合に合わせてます。</p> <p>*ゼミにおいて無断欠席は認めません。全員に迷惑が及びます。可及的速やかに連絡してください。</p> <p>*虚偽の申告をした方は、単位の取得はできません。</p>
JABEE	

科目名	研究ゼミナール1	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	佐々木 桐子	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410038	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	シミュレーション				
内容	<p>システムを調査・分析し、シミュレーションモデルを構築し、シミュレーション実験をおこない、問題解決策を検討します。授業内容は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ATMモデルの構築およびその発表。 ② レジモデルの構築およびその発表。 ③ 現実のシステムへの応用およびその発表。 				

学修到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるさまざまなシステムに興味を持ち、そこで起こる問題を発見し、モデル化することができる。 ・離散系シミュレーション言語を習得できる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	2時間
【復習】時間・内容	2時間

成績評価	
評価基準・方法	成果物（50点）、発表会（50点）により評価します。
フィードバック方法	発表会の後に、講評をおこないます。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	「講義ノート」を配布します。この「講義ノート」は、2年間使用しますので、無くさないようにしてください。
---------	---

受講上の留意点等	いろんなゼミナールについて、調べて、お話を聞いて、過去の卒業論文を見た上で、自分がどこのゼミナールでどんな研究をしたいのかをじっくり考えてください。
JABEE	

科目名	研究ゼミナール1	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	木村 誠		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410038	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	指数的成長技術時代のデジタル戦略1：事業・産業・ライフプランの未来を考える				
内容	<p>伝統的ゼミナールの運営手法である輪講担当箇所のレジュメ（要約）を通じた共通理解と内容の肯定あるいは否定についての議論を行う。</p> <p>各章の輪講担当者が行うこと</p> <p>? 全体の内容を容易に把握できるレジュメ作成を心がける。</p> <p>① 担当章のレジュメはA4サイズ2頁以内に収める。</p> <p>② 章内タイトルと頁（記述箇所）を明示する。</p> <p>③ 箇条書きで、矢印を多用する。特に時期や数量を抽出する。</p> <p>④ レジュメの補足資料として、スライド（図、表、グラフ、写真、動画等）を作成する。</p> <p>（※）個人の意見は書かない。内容の要約に専念する</p> <p>第1章 「コンバージェンス（融合）」の時代がやってくる</p> <p>第2章 エクスポネンシャル・テクノロジー Part 1</p> <p>第3章 エクスポネンシャル・テクノロジー Part 2</p> <p>第4章 加速が“加速”する</p> <p>第5章 買い物の未来</p> <p>第6章 広告の未来</p> <p>第7章 エンターテインメントの未来</p> <p>第8章 教育の未来</p> <p>第9章 医療の未来</p> <p>第10章 寿命延長の未来</p> <p>第11章 保険・金融・不動産の未来</p> <p>第12章 食料の未来</p> <p>第13章 脅威と解決策</p> <p>第14章 5つの大移動がはじまる</p>				

学修到達目標	レジュメ作成を通じて、大学生としての読解力、文章作成の能力を向上できる。漠然とした未来の産業や社会への展望が得られる。自分の未来への指針をもつことができる。
実務経験との関連性	米国製ソフトウェア販売代理店業務（営業企画推進）の経験を活かし、未来への思考について解説。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	輪講箇所の通読。輪講担当者はレジュメ作成。これらの確認作業に2時間を要する。
【復習】時間・内容	レジュメの見直し。週次課題レポートの作成のための調査、思考、記述と提出。これらに2時間を要する。

成績評価	
評価基準・方法	週次課題レポート（40%）、期末課題レポート（30%）、輪講担当（30%）の総合的評価を行う。
フィードバック方法	Slackの「help-研究ゼミナール1」チャンネルでインタラクティブに対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート

教科書/参考書	教科書：ピーター・ディアマンディス、スティーブン・コトラー『2030年：すべてが「加速」する世界に備えよ』NewsPicksパブリッシング、2020年、2640円。
---------	--

受講上の留意点等	前提科目として「デジタル戦略論」受講が望ましい。担当教員の研究分野と研究実績は、次URLで公開。 https://researchmap.jp/platform
JABEE	

科目名	研究ゼミナール1	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	藤瀬 武彦		実務経験の有無		×
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410038	経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること			
授業の目的・テーマ	<p>本ゼミでは、主に健康スポーツ科学関連の分野について研究指導を行う。その内容は私たち人間にとって最も身近な「身体の組成や機能」に関する研究、「健康体づくり」や「競技スポーツ」に関する研究、さらには私たちの生活に関わる「医療」や「交通」などの問題についての研究にまで及ぶ。研究ゼミナール1では、各々が興味ある事柄に関する研究論文を精読することにより基礎知識を身に付け、また共同研究（所属学生数にもよるが4~5名グループ）のテーマを決めて、実験（測定）あるいはアンケート調査などによりデータを収集する。そして、そのデータについては統計的手法を用いて分析し、研究成果についてプレゼンテーションを行う。</p>				
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンスと自己紹介 2) ビデオ観賞とフリーディスカッション 3) 共同研究のテーマ探し（過去のテーマの紹介とリサーチ） 4) 共同研究テーマの報告と選択（1?2題：班決め） 5) 研究内容の修正① 6) 研究内容の修正② 7) 被験者の確定と実験準備 8) 実験及びアンケート調査① 9) 実験及びアンケート調査② 10) 実験及びアンケート調査③ 11) 実験及びアンケート調査④ 12) 実験及びアンケート調査⑤ 13) プレゼンテーション資料作成 14) プレゼンテーションのリハーサル 15) 研究発表会 <p>【毎回予習・復習に合わせて4時間相当の課題を提出します】</p>				

学修到達目標	F: 文献考証等をしっかり行い、自己のオリジナルデータを収集して、研究として意義のあるものを追求する。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 3分間スピーチの内容と練習 2. 共同研究テーマを考える 3. 共同研究テーマの加筆修正② 4. 共同研究テーマの選択 5. 専門用語や測定・分析方法の確認① 6. 専門用語や測定・分析方法の確認② 7. 予備実験・予備調査の計画 8. 予備実験・予備調査の実施② 9. 本実験・本調査の実施① 10. 本実験・本調査の実施③ 11. 本実験・本調査の実施⑤及びデータ入力と分析②
【復習】時間・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えや感想を述べられるようにする 2. 共同研究テーマの加筆修正① 3. 共同研究テーマの加筆修正③ 4. 共同研究計画書（目的、方法などの担当部分）の作成① 5. 共同研究計画書（目的、方法などの担当部分）の作成② 6. 共同研究計画書（目的、方法などの担当部分）の作成③ 7. 予備実験・予備調査の実施① 8. 予備実験・予備調査の実施③（研究方法の確立） 9. 本実験・本調査の実施② 10. 本実験・本調査の実施④及びデータ入力と分析① 11. 発表資料の作成①

成績評価	
評価基準・方法	授業中の課題や質疑応答などによる演習点60点（遅刻等による減点あり）及び課題点（レポート等）40点により評価する。
フィードバック方法	質問等があれば時間外でも可能な限り対応する。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	必要に応じて資料をPowerPointまたはDVDやビデオなどで提示する。
---------	---------------------------------------

受講上の留意点等	社会の問題点（健康体づくり、少子高齢化、医療・介護、ゲーム・スマホ依存、いじめ・虐待、道路交通法など）とその解決方法に興味のある学生を望む。
JABEE	

科目名	研究ゼミナール1	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	藤田 晴啓		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410038	経営情報学部A：健全な社会生活を営むための常識を持ち、他者と協力して問題解決にあたることができること			
授業の目的・テーマ	<p>上記「関連するディプロマポリシー」より以下の経営学科のディプロマポリシーが本ゼミナールにふさわしいので、以下のとおり修正します 「人間の特性および人間活動、社会環境の理解に基づいた、地域の問題解決を提案・支援・実現できる人材育成」を目標に、以下の目的を設定します</p> <p>研究ゼミナールのテーマは 1 最新のデータサイエンス・ディープラーニングによりほぼ実物と変わらない合成されたヒトの顔を見たときヒトの認知にはどのような反応があるのか探る 2 地域の課題、特に人口流出に目を向け、その因果関係の解明と解決法について現地のヒトと協力して模索する</p>				
内容	<p>ゼミナールの内容は以下のとおりです</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人口の顔を生成するディープラーニングを実行し、被験者テストを行いヒトの心理的反応を解析する 2 佐渡の人口流出課題を解決するためのワークショップを現地で開催するとともに、佐渡でしかできない伝統芸能・絶景・グルメ体験ツアー商品を開発し、SNS発信によりマーケティングを行う <p>スケジュールは以下のとおりです</p> <ol style="list-style-type: none"> 2-3月（サブ研究ゼミ）：課外ゼミナールによる準備研修 4月：佐渡域学連携地域づくり応援事業の計画作成 5月：卒論のテーマ決定 6月：オープンキャンパス人口顔コンテンツ作成および準備 7月：オープンキャンパスにて被験者テスト、佐渡事業の準備 8月：佐渡域学連携地域づくり応援事業 <p>卒論はゼミ生が選択したテーマに沿って、教員とじっくり計画を立てます 毎週少しずつ卒論を書き、教員が個別指導 卒論は3年次中に多くの部分を書き上がります</p>				

学修到達目標	データサイエンスにおける社会環境の理解に基づき、ディープラーニングで合成される画像に対するヒトの反応と行動を解析できる 佐渡の人口流出問題解決を調査し、現地住民との交流により特殊旅行商品や雇用創生を含めた解決策を提案、情報発信、現地を支援、豊かな集落社会を実現できる
実務経験との関連性	世界遺産旅行を企画・実行するNPO運営の経験より佐渡での特殊ツアーのマーケティングを推進できる 2012年から続いている佐渡羽茂小泊集落との協力信頼関係（今年で10年目）

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	ゼミナール生は深層学習関連の前期授業を履修することにより予習に代替する これには2時間以上を要します
【復習】時間・内容	ゼミナール生は深層学習関連の前期授業を履修することにより復習に代替する これには2時間以上を要します

成績評価	
評価基準・方法	人口顔合成および被験者テストに関わる複数課題合計50% 佐渡市域学連携地域づくり応援事業に関する各種分担活動報告書25% 佐渡特殊ツアー企画マーケティングに関わる課題25%
フィードバック方法	課題提出後に講評を発表する

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	ディスカッション、ディベート/グループワーク/プレゼンテーション/実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	必要に応じて配布します
---------	-------------

受講上の留意点等	<p>自ら考え、行動することを心がけるようにしてください</p> <p>研究ゼミナール配属決定後の春季休業期間中に週1回午前の課外研究ゼミナールを実施します</p> <p>この課外ゼミナールはディープラーニング実習、3Dコンテンツ作成実習、ホロレンズ実習、佐渡市域学連携地域づくり応援事業（現地合宿含む）の企画準備、ゼミナールとして上記活動に関わる3年生、4年生からの引継ぎ研修を含みます</p> <p>8月中旬に実行する佐渡調査は全員参加となります</p> <p>2012年から毎年ゼミ生が参加する協力してきています</p> <p>この準備に前期の多くの時間をかけます</p>
JABEE	

科目名	研究ゼミナール1	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	山下 功		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410038	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	<p>管理会計と会計情報システムに関する研究 ～会計情報を活用して企業の命を救うことができます～</p>				
内容	<p>このゼミナールでは、管理会計と会計情報システムに関する研究を行います。 管理会計は「経営に役立つ会計」であり、企業の目標を達成するために会計情報を認識、測定、集計、分析、解釈する一連のプロセスです。それゆえ、財務会計が企業外部への報告を目的とするのに対して、管理会計では内部報告目的が重視されます。また、コンピュータの性能と通信技術が発展したことにより、経営情報システムと会計との結びつきが一層強くなっています。</p> <p>「研究ゼミナール1, 2」では管理会計に関する本を輪読し、知識を深めていきます。 「研究ゼミナール3」では卒業論文のテーマを選択し、文献などの調査を行い、執筆を開始します。 「研究ゼミナール4」「卒業論文」では卒業論文の執筆を行い、その成果を卒業論文発表会で発表します。 また、工場見学やゼミ合宿も行う予定です。</p>				

学修到達目標	原価や費用を削減して、企業がより多くの利益(儲け)を得る方法が身につく。 原価や費用の発生源によって、その管理の方法が異なることを理解できる。 会計情報を用いて、企業の業績の良し悪しを測定できる。 会計情報システムの機能や役割を、より深く知ることができる。 経営学だけでなく、技術やものづくりに興味を示すことができる。
実務経験との関連性	上場企業で経理業務・会計情報システム構築などに従事した教員が、実務経験を基に会計・経営について指導します。

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	教科書を事前に読み、要約を作成します。 卒業論文着手後は、卒業論文を作成します。 90分の授業1回当たり、予習と復習を合わせて180分が必要です。
【復習】時間・内容	教科書を事後に読み、理解を深めます。 卒業論文着手後は、指導内容をもとにして卒業論文を修正します。 90分の授業1回当たり、予習と復習を合わせて180分が必要です。

成績評価	
評価基準・方法	「研究ゼミナール1, 2, 3, 4」は、課題レポート50%、報告及び討論50%で評価します。 「卒業論文」は、論文70%、発表会25%、データベース登録5%で評価します。但し、3項目の全てを行った場合のみ、成績評価の対象とします。
フィードバック方法	課題に対して講評を行います。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	上埜進等(2010)『管理会計の基礎 第4版』税務経理協会, ISBN:9784419054595.
---------	--

受講上の留意点等	<p>このゼミナールでは、製造業(ものづくり)に敬意を払える学生を求めています。また、世の中の様々な現象に深く関心を持っている学生を求めています。毎日の通学で見る町並みの移り変わりなどの、身近なことでもいいのです。</p> <p>【卒業後の進路と就職先】 このゼミナールの学びはものづくりと関連が深いため、製造業への就職を推奨しています。 また、会計の知識を直接活かすことができる会計事務所や会計ソフトウェア会社への就職も推奨しています。公認会計士や税理士になる道もあります。 上記以外では、小売業、次いで情報産業への就職実績が多いです。 金融業(銀行、保険、投資等)、総合商社、マスコミなどはあまり推奨していません。また、就職実績も極めて少ないです。 上場企業への就職実績もあります。</p>
JABEE	

科目名	研究ゼミナール1	単位数	2単位	学期	前期
担当教員	土屋 翔	実務経験の有無		×	
科目区分	カリキュラムマップを表示する	関連するディプロマポリシー			
ナンバリング	X-32-B-3-410038	経営情報学部D：自主的、計画的に情報を集め、考察し、自らの見解を加えて記述し発表できること			
授業の目的・テーマ	<p>本研究ゼミナールでは、地域経営を基本として展開していく。発展のために考えられる内容を経営学的視点から考察し、提案、実行していく。 課題発見、解決の能力をあげることを目的とする。 具体的には</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域の現状調査 2) 現状を把握した上での改善提案 3) 地域主体の一つが企業であることを踏まえ、企業の実データを用いて、企業経営の課題解決に資するデータ分析と改善提案 4) より現実的に、持続的に発展するための再考 <p>をスパイラルアップのように何度も繰り返していく。 以上の活動の中で、地域における自身の役割を実感し、地域経営の本質を理解してほしい。</p> <p>基本的に教員が問題を提供し、その問題を学生間で解決する作業が何度もある。 しかし、回を追うごとに、自身で問題発見、解決する力を付けてもらう。</p>				
内容	<p>地域担当や業務担当を決め、活動してもらい、その都度全体で共有していく。</p> <p>研究ゼミナール1、2、3、4と連動しつつも、スパイラルアップを要求する。</p>				

学修到達目標	論理的思考能力や内在的批判精神を養うことができる。
実務経験との関連性	

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	予習に2時間。
【復習】時間・内容	復習に2時間。

成績評価	
評価基準・方法	成果物（50%）、貢献度（50%）
フィードバック方法	随時PCにて連絡のやり取りを行い、活動のフィードバックを行う。

アクティブラーニング	
実施の有無	○
実施内容	PBL（課題解決型学習）／ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習、実技、実験、フィールドワーク

教科書/参考書	特になし。
---------	-------

受講上の留意点等	<p>可能であるならば、Instagramで@t.c.y.laboを見てほしい。 他にも、研究室にこれまでの活動報告書があるので、必ずどちらかを見たいうえで選択してほしい。 積極的に行動することが求められる。</p>
JABEE	